看護のプロフェッショナリズムを共有するワークショップ

NEWS LETTER

ごあいさつ

この度、『看護のプロフェッショナリズムを共有するワークショップ』の記念すべき第1回を、2021年2月24日（水）にオンライン（Zoom）にて開催いたしました。ワークショップへご参加いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

本ワークショップ(WC)は、組織や所属の垣根を越え、また、物理的な距離や資金等の障壁なく、希望する者同士がともに学び合える『新しい生涯学習の場』を創造したいと考え企画いたしました。WCでは、プロフェッションと呼ばれる職業（専門職）がもつ特性*のうち、「自らの能力の維持向上に生涯努める」「後進の育成に責任をもつ」「職場を越えた同職者による組織を形成する」の3点に着目し、これらを体現する活動を目指します。WCを自他の成長に「プロフェッション」として貢献できる意義ある機会と位置づけ、参加者全員が「学びを楽しむ」ことを毎回の目標としていきます。

WCは、2～3カ月に1回のペースで継続開催の予定です。看護基礎教育のベースがあれば、専門職・学生と問わずどなたでも参加していただけます。第2回以降も、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

主催者代表　佐藤 政枝

＊野村英樹 (2015)：専門職の倫理 -プロフェッショナリズム その期待と責務- 医師の立場から, 理学療法学, 42(8), 730-731.

ワークショップの概要

テーマ：看護のプロフェッショナリズムについて考えよう！

※第1回は『対等に学び合うこと』をテーマにしました

◆ ワークショップ当日の流れ ◆

導入

- ご挨拶・説明
  - 開催の趣旨
  - WCとは
  - Professionalismとは
  - グラウンドルール 等

グループワーク

- ディスカッション（20分×3クール）
  - 3～5名のグループで実施
  - ワールドカフェ方式（メンバーチェンジを交えたディスカッション）
  - 自己紹介でアイスブレイクを！

全体共有

- 学びや気づき、感想など自由に発表
- ご挨拶・次回WCの案内

◆ ワークショップにおける約束 ◆

- 正解を求めるのではなく「共に語る」ことを目的としています
- ここでは、全員が利害関係や上下関係なく対等な立場です
- 話したいこと、伝えたいことを、遠慮なく語ってください
- 自分の意見を認め、また、相手の意見を認めましょう
- この場で知り得た情報は、口外しないと約束しましょう

公立大学法人 横浜市立大学 医学部 看護学科
基礎看護学 / 看護ケアシステム開発学　佐藤研究室（佐藤政枝）
E-mail：m_satoh@yokohama-cu.ac.jp　Web：http://plaza.umin.ac.jp/~msatoh-ken/

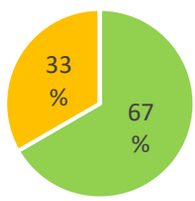
第1回　ワークショップの開催報告

開催日時：2021年2月24日（水）13-15時

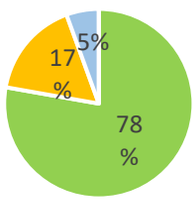
参加者：21名（看護職、看護大学生、大学教員、大学院生）

●ワークショップ後のアンケート結果（一部抜粋）　回答18名

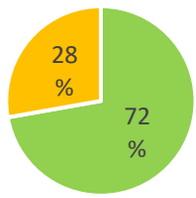
①面白かった



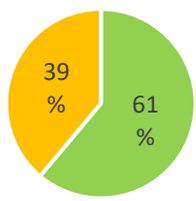
②楽しかった



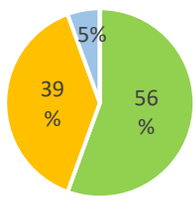
③興味・関心がもてた



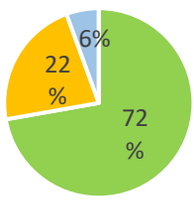
④必要性を感じて取り組めた



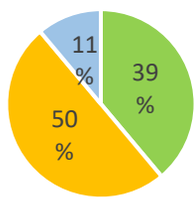
⑤看護のプロフェッショナリズムについて考えることができた



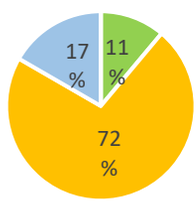
⑥対等な立場で学べた



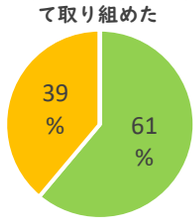
⑦自分が成長したという実感がもてた



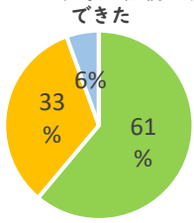
⑧グループメンバーが成長したという実感がもてた



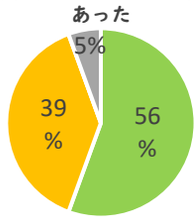
⑨仕事・役割上の課題と関連づけて取り組めた



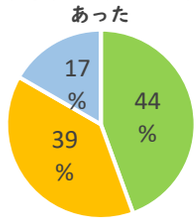
⑩人生や仕事の経験を活用できた



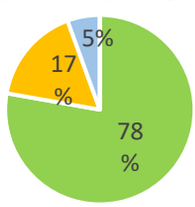
⑪実践で活用できる内容であった



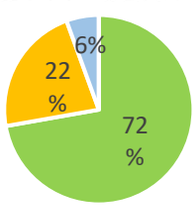
⑫課題解決に役立つ内容であった



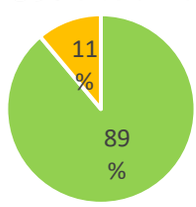
⑬安心して参加できた



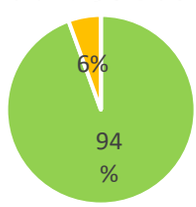
⑭話しやすい雰囲気だった



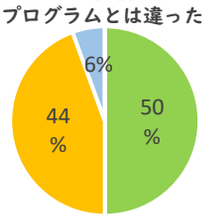
⑮参加してよかった



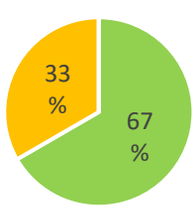
⑯オンラインは参加しやすかった



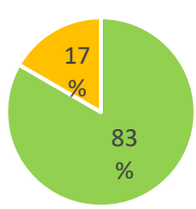
⑰これまでに経験のある研修プログラムとは違った



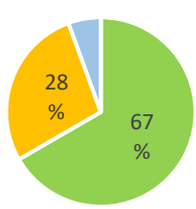
⑱もっと経験したいと思った



⑲また参加したい



⑳周囲の人にも薦めたい



■とても思う　■どちらかといえば思う　■どちらともいえない　■どちらかといえば思わない　■まったく思わない

自由記載で頂いた感想・ご意見

- ✓ 職種、立場、年齢を越えて話をする機会は少ないので、とても貴重な学びの場となった
- ✓ グループメンバーが変わると話題も変わるので、同じテーマでも新しい発見が得られた
- ✓ 普段あまり接することのできない組織や職種の方と話し合いができてとても楽しかった
- ✓ お互いを理解し尊重することが対等な関係につながると思った
- ✓ プロフェッショナリズムという用語は難しいが、身近な事柄を通して考えることで、取り組みやすかった

◆ 第1回まとめ ◆

グループディスカッション・全体共有を通じて「プロフェッショナリズム」や「対等に学び合うこと」について意見交換ができました。身近な経験を踏まえながら、終始和やかな雰囲気の中で、楽しく参加できるワークショップとなりました。参加してくださった方々は、学生、看護師、教員と様々でしたが、安心して学べる場づくりにご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

公立大学法人 横浜市立大学 医学部 看護学科
基礎看護学 / 看護ケアシステム開発学　佐藤研究室（佐藤政枝）
E-mail：m_satoh@yokohama-cu.ac.jp　Web：http://plaza.umin.ac.jp/~msatoh-ken/

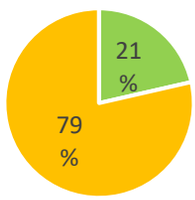
第2回　ワークショップの開催報告

開催日時：2021年3月24日（水）13-15時

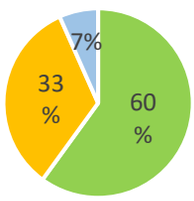
参加者：18名（看護職、看護大学生、大学教員、大学院生）

●ワークショップ後のアンケート結果（一部抜粋）　回答15名

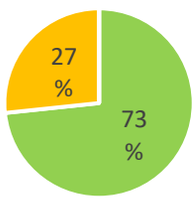
①面白かった



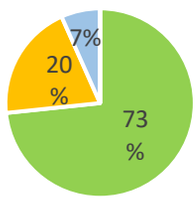
②楽しかった



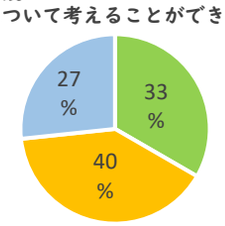
③興味・関心がもてた



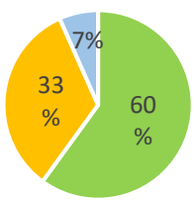
④話しやすい雰囲気だった



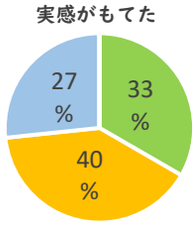
⑤看護のプロフェッショナリズムについて考えることができた



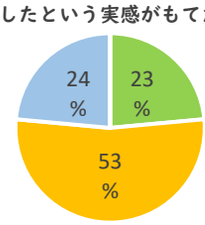
⑥対等な立場で学べた



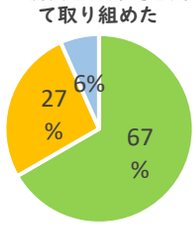
⑦自分が成長したという実感がもてた



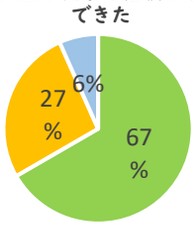
⑧グループメンバーが成長したという実感がもてた



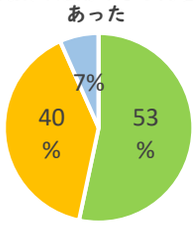
⑨仕事・役割上の課題と関連づけて取り組めた



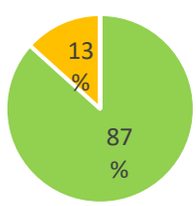
⑩人生や仕事の経験を活用できた



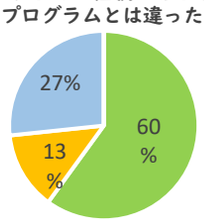
⑪実践で活用できる内容であった



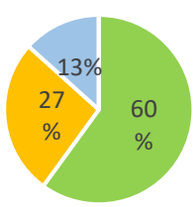
⑫オンラインは参加しやすかった



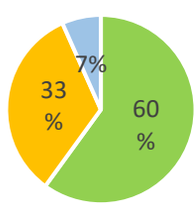
⑬これまでに経験のある研修プログラムとは違った



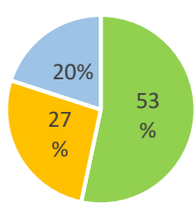
⑭もっと経験したいと思った



⑮また参加したい



⑯周囲の人にも薦めたい



■とても思う　■どちらかといえば思う　■どちらともいえない　■どちらかといえば思わない　■まったく思わない

自由記載で頂いた感想・ご意見

- ✓ 1回目と同じテーマであったため、意見交換の中で気づかされることも多く、さらに考えを深められた
- ✓ 難しいテーマだからこそ、それぞれの立場や個人でも考えが様々あり、意見を聴くだけでも興味深いため、もっと時間を取って、繰り返しディスカッションしていくことが大切だと感じた
- ✓ 病院で勤務していると、他の組織の人たちと意見交換する機会はほとんどないことから、様々な看護職が集まるWCでの経験は貴重であり、今後も参加したいと思った
- ✓ 臨床の方や先生方とディスカッションする機会は今まで多くあったが、学部の学生さんと同じテーマ、同じ目線でディスカッションできるのがとても楽しく感じた
- ✓ 大学生という立場ながら、教職の方、実習指導者の方、現場の方、博士課程の方など本当に多くの方々と立場を超えて、対等に言葉を交わせることに喜びを感じた
- ✓ 学部生の「関連づける力」「考える力」が素晴らしく、自分ももっと深い学びができるよう頑張りたいと思った
- ✓ 意見交換を通して、自分のできることから実践するんだ！と勇気が湧いた

◆ 第2回まとめ ◆

第2回は、前回のテーマをさらに深めつつ、同時に初めて参加してくださる方にも馴染みやすい場とすることを目指して進めさせていただきました。結果として、沢山の方からプラスのフィードバックをいただき、WCの力を改めて実感しております。参加してくださったみなさまに心より感謝を申し上げます。

公立大学法人 横浜市立大学 医学部 看護学科
基礎看護学 / 看護ケアシステム開発学　佐藤研究室（佐藤政枝）
E-mail：m_satoh@yokohama-cu.ac.jp　Web：http://plaza.umin.ac.jp/~msatoh-ken/